



## ワークショップ報告

児玉 恵美 (札幌支部)

女性委員会では2021年最後の委員会で『蜜蠟ラップづくり』のワークショップを行いました。

皆様 蜜蠟ラップをご存じでしょうか？ 私は今回のワークショップで初めてこの画期的な存在を知る事となりました。蜜蠟ラップは、繰り返し使えるエコラップです。『SDGs』の言葉と共に広く認知されるようになった『サステナブルな暮らし』を目指し注目されており、布に蜜蠟を染み込ませる事で、何度も洗って使用できるラップになります。

作り方はとてもシンプル 新聞紙を下敷きに、キッチンペーパー2枚の間に布と粒状の精製蜜蠟を挟み、その上からアイロンで蜜蠟を溶かしながら伸ばしていけば出来上がり！ 簡単そうですね。

会場では最初に7名の参加者全員で布選び 新海委員長が準備して下さったW.モリスやリバティ等のファブリックデザインにモチベーションは急上昇、使用する場面をイメージして大きさや厚みを吟味していきました。

そこから先ほどの順番にセットしてアイロンをかけるのですが、



ムラなく満遍無く蜜蠟を伸ばしていくのは、なかなかコツのいる作業で、蜜蠟が足りない箇所には時々キッチンペーパーを開いて足していく事を繰り返し、繰り返す、まるで餅つきの様でもあり、わんこそばの様でもあり、一人の作業に何人もの手が行ったり来たりしながら声を掛け合い共同作業となりました。

今回のワークショップでは、会場とWEBで『ハイブリットの物づくりワークショップ』というもう一つの挑戦をしました。



こちらでも試行錯誤しながら、最終的にはZoomでの会場映像とLINEによる手元映像・音声通話によって、WEB参加の堀田さんとも一緒に取り組む事ができ、また素敵に出来上がりました。

現在、我家では食品ラップに代わって、冷蔵庫保存担当として大活躍しております。(熱い物は蠟が溶けてしまうので使えません。) 冷蔵庫を開けると好きなデザインが目に入ってくるのも嬉しいおまけ。興味がある方は是非『蜜蠟ラップづくり』に挑戦してみてください。最初に申し上げましたが、作り方はとてもシンプル、しかしコツがある所、そのコツを掴んでいく喜びがある所が、『蜜蠟ラップづくり』の醍醐味だと思います。

## 片付けと建築士

岩崎 美乃 (函館支部)

新築やリフォームをして、しばらくして訪問すると、新しい収納に入れないで、使っていたところにモノが出しっぱなしになっていることは有りませんか。片付けの現場ではよく聞く「あるある」なのです。

### ■なぜそんなことが起こるのか

住んでいる人と家が合っていないからです。例えば、すごく使い易い評判の良い「作業服」があったとします。でもサイズや袖や丈が合わなかったりすると、窮屈だったりブカブカして、良いものでも着ていて疲れますよね。住んでいる人のクセや習慣が家に反映されていないと同じようにストレスになります。住んでいる人がだらしないからではないのです。

### ■どうすれば良いのか

- ①住む人が主役と考え、考え方や気持ち、習慣や行動のクセを知る
- ②住む人に合わせてモノを整える
- ③住む人に合わせて空間を整える

特に①の思考の整理が重要で、他人のやり方ではなく、住んでいる人自身が快適で自然に日常生活が過ごせる空間にすることが重要だと思います。例えば、大好きな本に囲まれて暮らすことが、とても幸福だと感じる人に、読まない本は捨てましょうと一般論を言っても心に響きません。

### ■仕事も家庭も生かせるスキル

コロナ禍の影響で今まで以上に自宅の環境が仕事や家庭生活にも重要となっています。そこで、片づく仕組みを家の間取りに取り込み顧客の満足度を上げることが建築士として大切です。今は片づけを学ぶことが出来る時代です。自分で学ぶ方法と、思考の整理を外注する方法が有ります。そのことを建築士として様々な顧客にアドバイス出来るスキルを身につけることが、これからは重要になります。